

《2012年度在京白聖会クラブ活動スケジュール》

- 10月26日(金)「第10回 在京白聖会ゴルフ大会」
(場所: ザ・ゴルフクラブ竜ヶ崎=茨城県龍ヶ崎市)〈1面〉
 - 11月10日(土)「第7回 ル・サロン・ブラン(芸術鑑賞クラブ)」
(古河・篆刻武術館を訪ねる)(場所: 茨城県古河市)〈2面〉
 - 11月17日(土)「第11回 中世城郭探訪」
(五日市街道要衝の城の見学と温泉)(場所: 東京都あきるの市)〈2面〉
 - 平成25年1月24(木)~28日(月)「第5回 白聖芸術祭」
(場所: ガリレア原宿=東京都渋谷区神宮前)〈1面〉
 - 平成25年2月10日(日)「第8回 歌の祭り」
(場所: 東京都渋谷区笹塚=Blue-T(ブルーティ))〈2面〉
- ※ご質問、お問い合わせは事務局 03-3269-0900 へお気軽にどうぞ。



2012白聖芸術祭

出展者募集

「白聖芸術祭」は、従来、年末に実施してきましたが、今年度は年明けの1月24日(木)~28日(月)の5日間開催します。会場は昨年度と同じ「ガリレア原宿」。期間中の1月26日(土)は、野口田鶴子さんによる「宮澤賢治と五行歌の朗読」のほか、希望者によるライブイベントなどを行います。

そのほか、年末に向けて在京白聖会のクラブ活動が集中的に行われます。ぜひ、お友だちなどお誘い合わせの上、奮ってご参加ください。

今年度「白聖芸術祭」は1月24・28日開催に

在京白聖会報

第33号

平成24年9月15日

発行

在京白聖会
(事務局)〒162-0835 東京都新宿区
中町1番地11号 桜出版 内
TEL&FAX.03-3269-0900
(http://www.hakua.sokei.co.jp/index.htm)※2012年6月1日より
事務局が上記に変わりました。

題字: 浅沼一道



玉澤健児さん(S43卒=中央)のギター弾き語り(2011白聖芸術祭)

《白聖芸術祭》開催要項

- 日時: 平成25年1月24日(木)~28日(月) 11:00~19:00 (ただし最終日は15:00まで)
- 会場: ガリレア原宿
〒150-0001 渋谷区神宮前3-14-17
電話(03)6447-1796
- アクセス: JR山手線「原宿」駅(竹下通り)より徒歩7分、地下鉄「表参道駅」(A2出口)より徒歩5分、地下鉄「明治神宮前駅」(5番出口)より徒歩6分
- 募集作品: 展示できる作品(ジャンルを問わず。歌、句等は色紙等に書き、掲示できる体裁にて出展)

参加者募集

疾風会(S42卒)の三連覇阻止なるか!

開催日: 平成24年10月26日(金)

第10回 在京白聖会・ゴルフ大会

事務局変更に伴い、今年度から前年優勝チーム年次が幹事を務めます。今回幹事は2連覇中の疾風会。年次対抗、プレー方式、送迎バスは従来通り。募集締切り後、個人戦でも2連覇中の疾風会・石井充さんから大会詳細が送られますので、ご協力をお願いいたします。

《在京白聖会ゴルフ大会》開催要項

- 日時: 平成24年10月26日(金)
- 会場: ザ・ゴルフクラブ竜ヶ崎〒300-10857 茨城県龍ヶ崎市泉町原口159-277 電話(029)764-0110
- スタート: OUT 9:48 IN 9:56(予定。募集締切り後、参加者に組合せ表を送付)。

- 集合: 8時30分(時間厳守)
- 募集定員: 9組36名
- 参加費: 5000円(懇親会飲料、賞品代、年会費含む)。※在京白聖会24年度年会費納入済みの方は3,000円。
- プレー費: 14,800円(各自で清算。昼食代および懇親会オードブル代含む)。
- 送料: 各ゴルフ場食堂での朝食バイキングは無料です。お弁当はご利用ください。
- 送迎バス: 集合7:00、東京駅八重洲口第2鉄ビル前(時間厳守) 出発7:15
- 料金: 3000円(往復) ※片道半額。
- 申込み先及び申込み締切り: ①氏名②卒業年次③連絡先住所・電話番号④チームの場合代表者氏名⑤送迎バス利用の有無を明記のうえ、10月5日(金)までに事務局まで(題字下参照 FAXまたは郵送で連絡ください)。

- 出展点数: 一人一点
- ライブイベント: 1月26日(土) 13:00から恒例の野口田鶴子さん(S40卒)による宮沢賢治と五行歌の作品の朗読を行います。そのあと、適度に休憩を入れながら16:00までの間、会場にて歌や演奏、落語、手品などのライブイベントを行います。
- 出展 & 出展料: 無料(ただし、作品の搬出入及び展示額等、展示にかかる費用およびライブイベントに要する楽器搬出入費用等、すべて出展 & 出演者の自己負担)
- 出展 & 出演資格: 在京白聖会員(在京白聖会会費納入の方)
- 懇親会: 1月26日(土) 16:00~18:00まで、会場にて懇親会を開催します。参加費3千円。作品出展、ライブ出演の有無に関わらず、どなたでも参加できます。
- 出展等申込 & 締切り: 以下の①~⑨の事項を明記のうえ、12月8日(土) 必着にて三浦千波さん(S50卒)住所は末尾の申込先参照まで郵送またはFAXのことで。

《お願い》撮影の許可について

出展作品を撮影し、来春発行の「在京白聖会会報」に作品の写真を掲出します。ご了承のうえ、お申し込みください。

- 申込み & 問合せ先: 〒211-0035 川崎市中原区井田2-15-50 電話(044)797-2170
- ※作品の大きさ、イベントの種類、演目時間によっては出展または上演できない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

- 申込みに必要な事項(様式自由) ①氏名 ②卒業年次 ③連絡先(住所及び電話番号 & メールアドレス) ④出展するジャンル またはライブイベントの演目 ⑤タイトル ⑥寸法(絵画の場合は号数。ライブイベントの場合は、上演に要する時間の目安) ⑦作品または楽器等の搬出入の詳細(持ち込・引取・宅送等の別) ⑧案内状の必要枚数 ⑨懇親会参加の有無及び参加人数(高校生以下は明記)

第7回ル・サロン・ブラン(芸術鑑賞クラブ)

参加者募集

古河・篆刻美術館を訪ねる

―開催日：平成24年11月10日(土)―

平成3年に日本で初めて開館した古河市にある篆刻専門の美術館を訪ねます(大正9年に建てられた石蔵を改修した建物)。

①企画展「中国古銅印の美」を鑑賞

②鑑賞後、篆刻実技体験(葉書に使用する程度の小印を製作。道具はすべて幹事が用意します)。

「ル・サロン・ブラン」開催要項

●日時・集合場所：平成24年11月10日(土)午前10時30分 JR古河駅集合

●交通：JR新宿駅 9：24発 JR古河着 10：22着 (JR湘南新宿ライン直通)

●申込み締切り：平成24年10月31日(水)

●申込み先：①氏名②卒業年次③連絡先



大正時代の石倉を改築した古河の篆刻美術館

住所&電話番号を明記のうえ 在京白聖会 新事務局(題字下参照) までFAXまたはメールで連絡ください。メールアドレスは sekuraco@leaf.ocn.ne.jp

第11回 中世城郭探訪

参加者募集

五日市街道要衝の城の見学と温泉

―開催日：平成24年11月17日(土)―



戸倉城本丸からの眺望

小田原北条氏が武蔵西部から甲斐に通じる五日市街道を押さえる拠点としていた山城を見学。城の真下を五日市街道が通っており、街道を押さえる要衝だったことがわかります。

「中世城郭探訪」開催要項

●開催日：平成24年11月17日(土)

(当日雨天の場合は18日(日)に実施。催行の可否は前日に決定)

●行き先：戸倉城及び秋川溪谷瀬音の湯(東京都あきる野市)

●行程：9：25青梅線武蔵五日市駅改札口



佐倉藩武家屋敷にて (2012.4.21)

今春の4月21日(土)、千葉県でも最大規模の本佐倉城を見学。技巧を凝らした土塁や巨大な空堀を見学後、佐倉市へ移動、佐倉藩武家屋敷及び佐倉城見学。この地域にまで勢力を誇示していた小田原北条氏の力を見ることができました。

活動報告

●申込み先と締切り：11月9日(金)までに大澤邦雄さん(S43卒)へ電話 03-6459-0041、または次々メール。 rtdoct_obsawa@yahoo.co.jp

●その他：入浴料 800円、簡単な軽食をご持参ください。

第8回 歌の祭り(歌の新年会)

参加者募集

ピアノの伴奏で独唱、合唱を楽しむ

―開催日：平成25年2月10日(日)―

夏冬恒例となった「歌の祭り」。歌の新年会は、昨年と同じ笹塚「ブルーティ」での開催です。毎回、幅広い年次のファンが集い、たつぷり5時間ピアノ伴奏による独唱や合唱、参加者の近況などの懇談を楽しんでいます。

開催要項

●開催日時：平成25年2月10日(日) 12：00～17：00

●開催場所：B1ue T(ブルーティ) 東京都渋谷区笹塚 1-61-8 ホテルブーゲンビリア1階 電話03-3375-1474

●アクセス：京王線 京王新線「笹塚駅北口」より甲州街道沿いに調布方面へ徒歩5分程。甲州街道に面して入口あり。大型パルソが目印です。

●会費：5,000円(ファンアルコールの方は4,000円)

●申込み先：早坂光平さん(S31卒) △電話／



「慰霊の歌」、「復興の歌」などを思いを込め全員で合唱 (2012.8.1 中延・ボナベティ)

2012総会報告

力強い岩手の復興に向けて
白聖から支援の輪を広げよう

日時：平成24年5月12日

講演会15:00～ 総会・懇親会16:00～

会場：東京ガーデンパレス（お茶の水）

第44回在京白聖会総会は平成24年5月12日（土）東京ガーデンパレスにて開催され、312名という大勢の参加をいただきました。盛岡からはご来賓として、母校の高橋和雄校長、白聖同窓会の谷村邦久副会長、硬式

野球部後援会の一戸秀光会長、恩師の山田預喜先生、沢田金吾先生にお越しいただきました。総会後の懇親会は銘酒「鷲の尾」による鏡開きでスタート、会場内には震災被害からの復興に懸命に取り組んでいる岩手沿岸部の銘柄を中心に地酒・ワインの試飲コーナーを設置しました。

さんさ踊りの大きな輪ができた

今年のテーマは「フルサトラ想ヒテ」。故郷への思いを込め

て「盛岡一高とその周辺の今」と題するビデオ及びスライドを上映、その後に故郷の祭「さんさ踊り」を黄色の浴衣姿で披露させていただきました。踊りは「さんさ踊り」の経験がある平成卒の若手（いわて銀河プラザを応援するボランティア「aneco」の皆さん）に指導いただきました。「aneco」の皆さんには当日の笛・太鼓・



鏡開き（左より）S16卒・阿部文弥さん、S25卒・及川昭伍元会長、S41卒・馬場信会長、S46卒・高橋和雄校長、S41卒・谷村邦久白聖同窓会副会長



「白聖五行歌集」が創立記念日に合わせて、啄木没後100年記念歌集「白聖一握の砂」を刊行、披露した。

歌、そしてレクチャーまで担当いただき、おかげさまで会場での「輪踊り」には予想以上に大勢の皆様に参加いただき、大盛況となりました。練習時から幹事年だけでなく諸先輩にも多数参加・ご協力いただき白聖の絆の強さを実感しました。ほんとうにありがとうございました。他にも、総会に先立ち、首都大学東京大学院教授・長瀬勝彦氏（S55卒）による「人間の意思決定は合理的か」というテ



310余名が参加した総会風景



同窓の山本正徳宮古市長（S49卒）も駆けつけ復興支援を呼びかけた。

マで講演会を開催し盛況を博しました。

ロビーでは「震災復興写真パネル展示」及び「いわて銀河プラザ」出張販売なども実施しました。なお、受付での募金とチャリティ販売の売上げが合計125,100円となり全額「震災白聖基金」へ寄付しました。本会は、若い世代の参加も増えてきています。ますます活気に満ちた総会になるように、来年の幹事である56年卒諸氏の健闘をお祈りします。皆様どうもありがとうございました。（55年卒幹事団一同）



来年度幹事の56年卒の皆さんにエール。よろしくお願いいたします。

お願い
平成24年度在京白聖会会費未納の方は、同封の振替用紙にて年会費2,000円のお振込みをお願いいたします。なおすでにお支払い済みの方に振替用紙がいまさら、ご容赦ください。



大友啓史さん（映画監督・演出家）

野球部に入りたかったスポーツ少年

三浦 司会 今日は大友君を囲んで、最近の活動や一高時代の思い出を語り合いたいんだけど、大友君にとって高校生活はどういう感じだった？

大友 野球をやりたいかった。中学時代、野球少年だったから。ところが、成長期にヒザに水が溜まるクセがついちゃって、野球ができなくなっちゃったの。体験入部みたいのがあって練習に参加させてもらったけど、こんな練習をやったら1カ月ごとにヒザの水を抜かなければならなくなり、これは無理だなと。それでも身体を動かさなければマズいと思ってバトミントンとかやってみたけど、これも途中でやめた。それで目的をなくしてグレていったね。いちばん心と身体のバランスがよくな



三浦一彦さん（鹿島建設環境本部地球環境室 次長）

かったときだったと思う。

小原 そういえばあのころ、大友が「バットとミットでバトミントン」って口説かれて入部したって言うってたの覚えてる（笑）。

大友 でも、スポーツができないと、さみしいし、何かで身体動かし発散させなければならぬから、お祭りが好きになるよね。

小原 「お祭りごと」の裏には、必ず「大友」がいたね。三年の夏期講習のとき、仙台から呼んだ有名講師の水を酒に変えた事件、覚えてるかなあ。「昔は酒を入れたりしている先生がい

『るろうに剣心』監督、『龍馬伝』『ハゲタカ』『白洲次郎』などを演出した 大友啓史（S60卒）と愉快な同期生たち

NHKの人気大河ドラマ『龍馬伝』や『ハゲタカ』『白洲次郎』を演出した大友啓史さんは、今や日本でもっとも注目される監督だ。この8月末には独立第1回監督作品となる『るろうに剣心』が全国で封切られたが、非常に評価が高く、好調な動員をみせている。早くも数年先まで監督予定作品が決まっており、黒澤の再来と期待される大友啓史監督だが、高校時代はどんな生徒で、演出の仕事に進んだキッカケは何だったのか、そして監督として成功した秘訣はどんなところにあったのか、白聖同期の仲間が集まってもらい、忌憚なく語ってもらった。

たりして」とかいふ話をちょこっ

として、休憩時間になったら「ソ

レツ、買ってこい」と。あとで

菅野 えっ、そうなの。私は大友君とは上中から一緒だけど、ずーっとクールで真面目な人だという印象だった。

三浦 菅野さんは高校時代何をしていたの？

菅野 中学はバレーやってたけど、高校ではハンドボール部の

マネージャーをしてた。

三浦 大森さんは？

大森 私はテニス部だった。先輩には達増さんとかいた。

大友 大森さんは最後までちゃんと部活やったの？

大森 やったよ。でも、大友君が陰でそんなに不良してたなんて知らなかった。

大友 いや、オレは不良じゃなくて、単なるいたずらっ子だったの。（笑）

監督の仕事は大きな声で「スタート」を言うこと

三浦 ところで、大友君はどうしてこの道に入ったの？

大友 ぼくは浪して慶応の法学部にいき、弁護士になろうと二年間は真剣に勉強したんだけど、途中で嫌になって仏文に学士入学しようと思っていた。そうすると就職先はマスコミしか

ないわけ。それでドキュメンタリーでもできたらいいなと思っ

て、いくつか受けてひっかったのがNHKだったわけ。最初は秋田で4年。「のど自慢」をやったりね。

三浦 転機になったのは、やはりロスへの留学？



小原文幸さん（テレビ岩手 北上支局長）

大友 1997～99年のロスへの留学は、基本的には脚本や演出の勉強をしに行っただけで、途中で映画もビジネスだとか気がついたのね。キッカケは98年に亡くなった黒澤明監督。実際のところエンターテインメントの世界では海外で日本人は相手にされないじゃないですか。現場を見学に行っても、厳しくてなかなか見せてもらえない。ところが黒澤だけは別格で、学長室にポスターが貼ってあって、CBSもNBCもその死をトップニュースで伝えるんだよね。「クロサワってスゲエなあ」って



菅野 八潮さん(リリオセントラルフィットネスクラブ専務取締役)

あのとき思ったね。そこで黒澤追悼週間っていうのを勝手に決めて、自分の部屋で作品のビデオや追悼番組なんかを見たりしていたんだけど、その中で大島渚が、「映画監督はみなよい作品を創ろうとしているけれども一つ忘れていることがある。それは監督道みたいなもので、それを教えてくれたのが黒澤明だった」と言っていたのね。つまり、映画を創るには、よいものを創るという作業と、それをどうやって創るかという方法論の二つが必要だということ。それはどういふことかと言えば、大島監督は当時『御法度』という映画を車椅子に載って創っていたけど、「よい、スタート!」とか「カット、OK!」と大きな声で言う。あれなんだよね。監督というのは、「はじめ」と「終わり」をきっちり言うことが仕事なわけ。ということは、実はこれって経営論じゃないですか。自信を持って大きな声で「はじめっ!」と言うにはそこにいる準備がしっかりしていないとできないし、弱みをみせちゃいけないとか、最後まで責任を負わなきゃいけないとか。

これはもうドラッカーじゃないけどマネジメント、つまり経営の問題だよ。そこでロスで映画と併行してMBAのビジネスのクラスなんかにも行きはじめたわけ。

小原 声のデカさで思い出したんだけど、オレ、たまたま仕事で、藤原の郷で上映されている『龍馬伝』のメイキングビデオで大友のシーンを見たことがあるの。モニター見ながら大きな声で怒鳴っているんだよね。「ずいぶん気合い入ってるなあ」って思ったけど、今の話を聞いて、「ああ、このことか」と納得した。

大友 1本で数億が動くからね。しかも「スタート!」といったら、もう後戻りはできない。声だつて大きくなるよね。でもデカイ声を出すとストレスもた

テーマは一貫して新渡戸稲造の「武士道」の追究

三浦 留学すると思いがけない発見とかあるよね。菅野さんも

海外で働いていたんだよね。

菅野 一高に入学したときから海外に出たいと思っていて、80年代後半から95年までアメリカのサンディエゴで日系の会社の社長秘書として働いていた。

小原 三浦君は?

三浦 ぼくはフランス。

大森 私は途中で1年戻りましたが、去年の秋に戻るまでは1996年から14、15年くらいずっとトロントにいました。



大森久子さん(明治学院大学社会学部付属研究所 研究員)

まらないんだよね。映画を創ることはそういう覚悟の問題なんだということをアメリカで学んで以降、ずいぶん演出の仕事が楽になった。演出の仕事の価値は職場の上下関係とかではないんだってね。映画の現場って、汗臭い土方の現場のようなところで、いまだに丁稚関係みたいな古い体質が残っていると思われがちだけど、そこで100人とか200人が仕事をしているんだけれど、ほんのちよつと違う概念を入れれば、みんなの意識も変わるんだよね。

大友 それはスゴい!

三浦 同じ時期ぐらいに留学してたって人は結構いるよね。

菅野 でも、大友君の周りにはすごい人ばかりで、たいへんなんでしょ? 俳優さんに演技指導とかもするの。

大友 もともと田舎者だから、そういう人たちを相手に仕事をするのはたいへんだっただけだ、おれ、死闘マニアって呼ばれていたんですよ。マニアだから死闘が続くんですよ。でも、企画を通すのは得意だったな

あ。ストレートのラインでは通らないから、最終的に採択する人はだれかということを見つけて一緒に飲みに行くとか。

三浦さすがに、出世するタイプだね(笑)。

大友 いや、おれの場合は出世じゃなく、いかに「出資」させられるかが闘いだっただけ(笑)。

三浦ところで大友君は盛岡の友人たちと「映画の力プロジェクト」を結成し映画を通して心の復興を目指して、その一環として新渡戸稲造の生誕150周年を記念し、盛岡公会堂で武士道と映画について語る「武士道なう」といったイベントも手がけているよね。それで監督として独立一作目の作品の『るろうに剣心』は、原作は漫画で、幕末には最強の人斬りと呼ばれ恐れられた主人公の緋村剣心が、廃刀令で刀を持つてはいけ

ない時代になつて「不殺」(人を殺さず)の誓いを立て、人を斬らずにいか

うことをモチーフとした物語なんだけど、この『るろうに剣心』と新渡戸の武士道はつながっているの?

大友 新渡戸の武士道はキリスト教をベースとした騎士道の「ノーブレス・オブリージュ」なんだけど、それは「人を斬らずに人々を守る」という剣心のポジション、ものの考え方につながる。ノー



大友啓史独立第1回監督作品『るろうに剣心』のポスターを囲んで(「テレビ岩手東京支社」にて)



テレビ岩手東京支社会議室（東銀座）で行われた座談会風景

プレス・オブリージュ」というのは、高貴なる人はいざ鎌倉というときには真つ先に行つて闘うという伝統ね。あるとき新渡戸が「日本には道徳心を教える宗教教育がない」と言われ、「いや、日本には武士道がある」と言つてそれを英語で書き、大ベストセラーになった。新渡戸が英語で世界中に武士道を伝えた人だとすると、世界23カ国で翻訳され5700万部も売れているマンガの『るろうに剣心』は武士道などという説教臭いことはひと言も言つてないんだけど、ロールプレイングゲームのようなアクションで若者たちに知らず知らず武士道を伝えている作品だとぼくは思っている。ぼくのなかでは、新渡戸と剣心はまったく同じです。龍馬と同じ。彼も剣の達人だったけど、

生涯一人も斬っていない。『白洲次郎』もそう。その意味では、ぼくのテーマは新渡戸の武士道で貫かれている。新渡戸の武士道は、時代が求めている存在であり、現在の日本人にどう生きればよいのか、どう行動すればよいのかを示してくれるものだと思う。「武士道なう」というメッセージに込めたのはそういう思いです。その新渡戸は岩手が生んだ偉人だよ。だからまず、ぼくは岩手から新渡戸の武士道精神を発信して欲しいと思つている。

小原 『るろうに剣心』は、出演者やスタッフの間から早くも第2、第3作を創つて欲しいという話が出ているんだって。

大友 うん、ぼくもこれをヒットさせて、Ⅱ、Ⅲを撮りたいと思つている。

三浦 今は映画館ばかりかDVDすら借りなくなつたと言われているよね。そのなかで映画を創っていくことはたいへんなことだと思つけど、大友君が創つた映画が大ヒットして、映画館に人を呼び戻すキッカケになればうれしいよね。みんなで映画館に足を運ぼうね。

大友 ありがとう。ぼくも映画は撮つておしまいでではなく、岩手と映画を盛り上げるためならなんでもやらなくちゃと思つている。これからも応援をよろしくお願いします。

活動報告

第8回 在京白聖レディス会

話に花咲く銀座でランチの女子会

開催日：平成24年6月16日（土）

昨年は震災の影響で中止した在京白聖レディス会。今年はゲストに玉澤健児さん（S43卒）を迎え、お食事とおしゃべりと玉澤さんのギターの弾き語りを心行くまで堪能しました。



「気兼ねなくおしゃべりが楽しめる」と人気の在京白聖レディス会。昼間の開催も「出かけやすい」と好評だ。



前事務局長・玉澤健児さん（S43卒）のギター演奏で合唱を楽しむ参加者

ア・ラ・カルト

●『九斗戦始末記 北斗英雄伝』早坂昇龍著
早坂昇龍は工藤英司さん（S53卒）の時代小説のペンネーム。現代小説では早坂ノボルが筆名（姫神雪しぐれなど）。本書は戦国末期、秀吉に最後まで抵抗した北奥の国主・九斗政実の闘いを描く。表紙絵は同期S53卒の萌園翠（渡部恵子）さん。蒼龍舎2012年4月15日刊。1,500円（税別）。



●『秋葉原日記第五集』馬場信著
著者は在京白聖会長の馬場信さん（S41卒）。当会HPのリンクからも読めるSANO WEB連載の洒落なコラムを集めた人気コラム集。残念ながら本年6月でWEB連載コラムが終わり、本シリーズの最後となる。



産報新書
2012年8月10日刊
1,143円（税別）



600円（税・送料込）
支払い：記念誌と一緒に郵便局の
払込用紙が送られてきます。

●『白聖一握の砂』白聖五行歌会
啄木没後百年を記念した五行歌集。五行歌は啄木の三行書きから生まれた。「一握の砂」の意味について新説を提唱。三浦十波さん（S50卒）の表紙。武田夏美さん（S53卒）の五行歌の書も注目される。



残部少々。希望者には1,000円（税・送料込）でお分けします。希望者は事務局まで。

編集後記

事務局が変わりました。前事務局に感謝申し上げます。いろいろな点が多々あると思いますが、支障なきよう務める所存です。指導のほどよろしくお願い致します。（Y）



